

〔長久手町業務評価票：平成20年度業務〕

担当課・係名	環境課ごみ対策係【問合せ・質問等の先（電話・内線番号）	172】
第4次総合計画の 該当項目	2節4項	廃棄物リサイクル

業務の名称	ごみ対策に関すること			
(1) 根拠法令・条例	廃棄物の処理及び清掃に関する法律・長久手町廃棄物の処理及び清掃に関する条例・同規則			
(2) 当該業務量 (延人員規模含む)	総業務量の <u>25</u> % (係の総業務量を100%とする) 職員延人数： <u>3.7</u> 人・日 (臨時雇用者延人数： <u> </u> 人・日)			
(3) 事業費 (人件費分を除く)	<u>38,926</u> 千円 (平成20年度決算(細目・細々目の実績から抽出・算定する))			
(4) 補助率(補助金がある 場合のみ記載)	<u> </u> % (平成20年度実績)			
(5) 業務期間	開始した年度	昭和42年度	終了(予定)年度	未定

(6) 業務の概要 (簡潔に箇条書きで記載)

① 業務目的 (達成目標)	3R運動の発信地としてエコハウスを運営し、「捨てればごみ、分ければ資源」をモットーに資源化を推進し、ごみの減量をさらに図る。
② 業務が対象とする住民 (地域、層)	住民全員が対象
③ 業務の具体的な実施内容・方法 (平成20年度実績)	<ul style="list-style-type: none"> ① エコハウスの運営 ② 雑がみの回収推進 ③ プラスチック製容器包装ごみのPR ④ ケーブルテレビでの放送 ⑤ レジ袋有料化に向けての協議会の開催

④ 業務の実施結果 (平成20年度実績)	次の事項を実施してきた。						
	【業務結果の説明指標】 (回数)						
		結果の説明指標					
		17年度	18年度	19年度	20年度 実績	将来目標	
	1	衛生委員会での説明	3	3	3	3	2
	2	環境かわら版の全戸回覧	—	3	3	3	3
3	ケーブルテレビでの放送	—	3	2	4	4	
4	ごみ資源カレンダーの充実	1	1	1	1	1	
5	循環型社会推進会議	2	3	3	3	3	

(7) 遂行上の問題点、取組課題 (簡条書きで簡潔に記載)

- ・時代とともに「もったいない」感覚が薄くなり、すぐ捨ててしまう。
- ・人口増により、ごみの総量は増える可能性がある。

(8) 改善実績（過去4年間の実績）

ごみの量は人口増があり、資源化を推進することによって、一人あたりのごみの量は着実に減少している。一人一日あたりの家庭系ごみ・資源排出量は平成15年度の832gから減少し、19年度には777gとなっている。15年度から比較すると約6%減少しています。

(9) 業務の評価（自己診断）

評価基準	評価の視点	三段階評価 (2~0点)
①目的の達成状況	業務目的に対して、どの程度の成果が得られているか。	2点
②コストパフォーマンス	成果を上げるために投入してきた人的資源、財源は、適切であったか。	1点
③業務方法の最適採用	業務の円滑で効率的な実施に採用した方法・手法は業務の目的、取り巻く状況に対応して適切であったか。	2点
④住民の満足・信頼獲得	受益する住民の満足、行政に対する信頼は高められたか。	1点
⑤総合計画との整合	総合計画（基本計画）の方針に対応しているか。	1点
⑥他都市との比較	近隣の都市、類似団体に比べて業務の進み具合はどうか。	2点
2点：成果あり、適切だった　1点：ある程度適切だった　0点：適切でなかった、遅れている		平均 1.5点

(10) 総合評価（課の見解）

①今後の方向 (該当番号に○印)	<ol style="list-style-type: none">前年度と同じく、そのまま継続する。見直して継続（業務の拡大）見直して継続（業務の縮小）見直して継続（方法の改善）見直して継続（他業務と統合）廃止する。休止する。
② 価理由	ごみに関する住民への協力について積極的にPRをおこない、ごみの分別、雑がみ等の資源化、エコハウスの有効利用など、ごみ減量について積極的にうたってきた。

(11) 今後の目標・改善方針（具体的かつ簡潔に記載。課の見解を記入すること）

① 改善目標	各種団体、組織に、雑がみ等ごみの減量について説明会をおこない、取組みを働きかける。 粗大ごみの有料化の実施。
② 善時期	説明会は逐次おこなう。 粗大ごみの有料化は平成23年度中。
③ 善方法	積極的に雑がみ説明会等を開催し、周知活動をしていく。 粗大ごみの有料化を瀬戸市、尾張旭市と歩調を合わせ実施にむけて検討していく。